

# PREX NOW



PREX  
Pacific Resource  
Exchange Center

## 途上国と関西をつなぐ VOL.257

特集:SDGs×PREX

### 問題3

2050年には海の中には  
魚よりプラスチックごみの方が  
多くなっていると  
予測されている。

○か×か？

視野を  
地域から  
地球へ。

特定非営利活動法人  
ゼロ・ウェイストアカデミー  
坂野 晶 理事長



2019年9月17日、大阪国際交流センターで開催した「第3回 上本町SDGs大学」は、「SDGs×エコの輪」をテーマに特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミー 坂野 晶 理事長と山陽製紙株式会社の原田 六次郎 代表取締役をゲストスピーカーとしてお迎えし、SDGsに関心のある26名の皆さんにご参加いただきました。  
皆さんへ質問です。

2050年には海の中には魚よりプラスチックごみの方が多くなっていると予測されている。  
○だと思いますか？ ×だと思いますか？

# リサイクル率を 80%にできた 理由。

## SDGs ×

「ゼロ・ウェイスト」とは  
すべての製品が再利用される  
仕組みをつくること。



特定非営利活動法人ゼロ・ウェイストアカデミーの理事長をしている坂野 晶です。

現在、世界で廃棄されるもののリサイクル率は2割ほどです。特にプラスチック製品は平均すると半年、短いものでは15分程度しか利用していないのに、その4割は「使い捨て」です。海洋プラスチックの量がこのまま増えれば、2050年には世界の魚の重量を上回ると言われています。海外ではレジ袋を持っているだけで罪になる国も出てきています。このような世界全体の状況をより多くの人に知ってもらいたいと思います。SDGsを推進するうえでは、企業と個人両方の活動や責任が大事です。製造段階からの見直しや、売り方や買い方も変わってきています。

徳島県上勝町では2003年にゼロウェイスト宣言を行い、廃棄物は「45分別」、リユースショップや布の再生などを通して、「ゴミ」を生み出さない取り組みを続けてきました。その結果、リサイクル率を8割まで高めています。残り2割は生産段階からの設計変更などが必要だと感じています。「ゴミ」とは主観的なもので、「ゴミ」だと思った時に「ゴミ」になります。リサイクルできるかどうかという見方で製品を選んだり、そのための仕組みづくりが不可欠です。ヨーロッパでは「サーキュラーエコノミー」といって、循環型の経済成長戦略でなければ生き残れないということも議論されています。皆さんの行動と仕組みを変えることが大事だと思います。

私たちが日常でできることは…

- ①レンタルやシェアの活用 ②計画的な買い物
- ③BYO(Bring Your Own)=マイバッグやマイボトル、マイ箸
- ④中古やリユースの活用 ⑤地産地消
- ⑥素材を知る(リサイクルできるか?) ⑦プラゼロを目指す。

仕組みを変えるためにできることは…

相手がいる場で断る:ストロー、おしごり、レシート、レジ袋  
お客様の声、市民の声として届ける



ゼロ・ウェイスト認証制度  
の運用も行っています。

# 使った水を きれいな水にして 川に返したい。

## エコの輪!



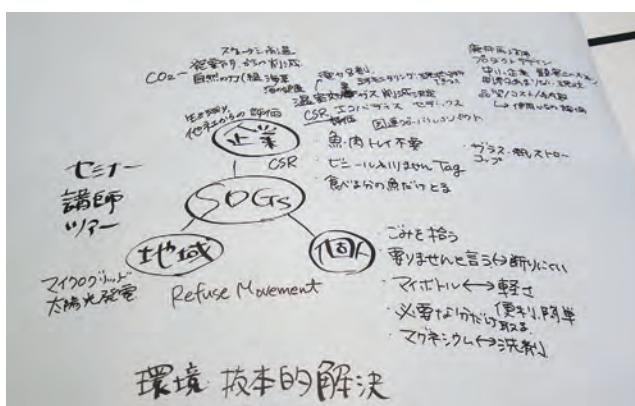
紙づくりを通して  
循環型社会の「輪」を  
作りたい。



山陽製紙株式会社 代表取締役の原田 六次郎です。

わたしたち、製紙業では大量の水や、電力、ガスなどのエネルギーを使用します。創業50周年の時に経営理念を「私たちは紙創りを通してお客様と喜びを共有し、環境に配慮した循環型社会に貢献します」と見直しました。循環型社会を作っていくなければ、企業を存続させていくことができないと考えたためです。この経営理念を基に、循環型社会に貢献するための様々な取り組みを行ってきました。

例えば、川の掃除を行ったり、エコ検定やCSR検定を受けることを社員教育の一環として行ったりしてきました。また、高度排水処理設備を導入し、紙を作るために使った水をきれいな水にして川に返しています。そんな取り組みを続けてきて「環境ひとづくり企業大賞」を環境大臣から直接いただいたときは嬉しかったです。また、「PELP!」という使用済みのコピー用紙を回収して再生紙の各種製品にアップサイクルするサービスも行っています。製紙会社としての強みを発揮し、貴重な資源である紙を捨てずに、再び紙として再生させる、循環型社会を作っていくたいです。



PELP! CONCEPT ABOUT PRODUCT KAMITORE STORY INTERVIEW ENTRY INFORMATION CONTACT COMPANY

PELP! は、コピー用紙を資源に変える  
アップサイクルサービスです。

PELP! ブランドムービー

PREXでも、「PELP!」活用中です！

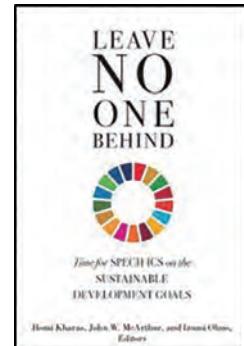
# SDGsについて教えてください。

PREXは研修事業だけでなく、活動を通じてSDGsへの理解を広めることも、ミッションの一つだと考えています。SDGsが注目されている背景や、私たちが貢献する理由について、JICA研究所 大野所長にうかがいました。



**大野 泉 氏**

JICA研究所所長  
政策研究大学院大学(GRIPS)客員教授  
アジア太平洋研究所(APIR)上席研究員



今年10月に発刊された  
「Leave No One Behind:  
Time for Specifics on  
the Sustainable  
Development Goals」  
JICA研究所と米国ブルッキン  
グス研究所との共同研究

## ■最近は背広にSDGsバッジを付けている方もよく目にすることになりました。 今、どうしてSDGsが注目されているのでしょうか？

SDGsの前に、2000年に策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)がありました。2015年までに途上国の貧困を半減するために、世界が協力して支援を強化する決意をしたものでした。MDGsは人道的な支援に焦点を当て、その中心は先進国から途上国への公的な援助でした。これに対し、2015年に策定されたSDGsは、その検討プロセスに企業や市民社会、研究者なども参画し、環境問題はじめ地球規模の課題と途上国の開発問題の両方を合わせる形で合意されました。そして「誰ひとり取り残さない」という視点で、途上国だけでなく先進国も自らの課題を解決すること、そのためには民間企業も重要な役割を果たすことが明確に位置付けられました。それを受け、社会や環境、経済を調和させることをベースにビジネスの在り方を考えなければいけないと「自分ごと」として取り組む企業が増えているのではないかと思います。日本でも大企業の経営層はCSRだけではなく、調達・生産・販売などサプライチェーンのすべての段階で環境社会配慮をしようと考えています。また特に欧米では、ESG投資に代表されるように、金融の面からもサステナビリティを重視して資金を提供しなくてはいけないという機運が高まっています。それによって、企業にとってサステナビリティを大事にしたほうが資金調達の面でもよりよいビジネス環境が得られるという状況にもなります。

## ■SDGsが自分にどう関連するのかピンとこない、これまでよい組織経営を目指しているが、それとどう違うのか?と質問されることがよくあります。

「SDGs」という言葉を使わなくても、「三方良し」のような価値観で経営している企業は日本に多いですし、国際社会で呼ばれている価値観がしっくりこないという方もいるかもしれません。でも、今や企業活動は様々な面で世界と密接につながっています。例えば海外でビジネス展開していたり、外国人を雇用していたり、原材料の調達や販売などマーケティングの面で海外と繋がっている企業は増えているはずです。このように海外との結びつきが広がっている中で、誰がどのように原料を生産し、どこで加工しどのようなものを作って、どう販売し最終的に誰がどう利用しているか、という点を考えて初めてグローバルな企業経営が成り立ちます。もちろん三方良しの精神は大事ですが、遠いところに住んでいる作り手や消費者のことも配慮しなくてはいけませんし、地球全体がどうなるかを考えねばならなくなっています。もっと広い視野で長い将来を見据えて、今まで以上に自己配りをしないといけないということだと思います。未来志向で発想することで新たな課題やニーズが見え、途上国の人々や世界のために積極的に貢献できる製品やサービスを開発できれば、ビジネスチャンスにもなるでしょうし、SDGsに基づいてサプライチェーンを考えるよききっかけにもなります。世界がこれだけ繋がっている時代ですから、広く世界の課題やニーズをとらえて、ビジネスを通じた解決策を考えることを促す契機になる、という風にSDGsを捉えていいたらいいのではないでしょうか。



JICA研究所の1FにあるSDGs展示

企業がグローバルなサプライチェーンの一翼を担うときに、サステナビリティに関して独自に取り組んでいたとしても、それを確認できるチェックリストや基準・認証がなければ、サプライヤーとしての資格要件からはじかれてしまう可能性もあって、勿体無いことになります。特に中小企業は不利にならないよう、留意しなければなりません。グローバルに使われている言葉や共通言語になりつつある定義・キャッチフレーズなどを知ることによってリスクに対応できることになります。

## ■日本がSDGsに取り組む必要があるのはどうしてでしょうか？

SDGsには先進国の課題も含まれています。「誰ひとり取り残さない」というSDGsのレンズを通して見ると、少子高齢化、地方の過疎化など、日本が直面する課題に新たに気づかされます。またその対策自体が世界的な課題や途上国のニーズに取り組む際に参考になる可能性があり、ビジネスチャンスともなり得ます。これまでの取り組みや技術・サービスを改めて新しい視点で評価し直すきっかけとなります。

第二に、日本自身が国際協力を通じてドナーとして、途上国の開発や地球規模の課題に積極的に貢献できる余地が大きいことがあります。災害や公害、健康や教育、産業発展など、日本の経験を活かした課題解決のアプローチで世界的に共有できることは多くあります。さらに、まだ解決できていない問題で日本自身が今、試行錯誤しながら取り組んでいる経験も、途上国でのSDGs達成に貢献できるはずです。

第三に、日本が途上国に教えるだけでなく、国内と海外を双方向につなぐことで、それぞれの課題解決にお互いの経験や事例が活かせますし、その際にSDGsのゴールに照らして発想することで相乗効果が出ると思います。

例えば、上勝町のゼロウェイストの取り組みも地域で廃棄物を出さない生活を生み出そうということから始まり、それをダボス会議で世界に紹介したら共感を得られ、海外からも注目が集まっているそうです。世界に共通する取り組みが世界にとって気づきをもたらす際、共通言語としてのSDGsが役に立つのだと思います。

日本のこれまでのやり方だけを単線的に伝えるのではなく、逆に海外の多様な考え方やアプローチから教わることもあるはずで、内と外のつながりが相互の課題解決を促進することになるのではないでしょうか。

そういう意味では、様々なステークホルダーと繋がっているPREXこそが強みを発揮できるのではないかでしょうか。PREXは関西に根差し、日本の誰が、どの企業がどんなノウハウを持っているのかを把握していると同時に、途上国の視点から世界の課題も理解しています。まさに途上国と関西をつなぐことで、日本の企業にSDGsについての気づきを与えるとともに、途上国の企業との出会いの場を作り、お互いを結び付けて課題解決をもたらす「つなぎ役」になれるのではないかでしょうか。



シリアの企業家であるイマード・ハイダールさんの帰国後のストーリー2回目。写真は、2009年度の研修参加時のイマード・ハイダールさん（右から2人目）とご指導いただいた先生方です。

国際交流部 瀬戸口

アラビア語のテキスト



シリアのハイダールです。前号に続き、日本での研修が私の人生をどのように変えたのか、お伝えしたいと思います。2009年度PREXの「総合的経営管理研修」に参加した私はカイゼン活動、5S、見える化、カンバン、提案活動、品質マネジメントや品質管理など多くのことを学びました。そして帰国後は工場や生活で実践するため、日本人専門家の協力で「3S活動」を始めました。また同業者や他の経営者に普及すべく、研修に参加したメンバーとともに「経営改善プロジェクト」コースやワークショップを始め、JICA同窓会の協力でアラビア語の教科書も作成しました。しかしシリアで戦争が始まり、アレッポにまで拡大した2012年、自分の工場はなくなり、破壊と狂気によって、社員とともに始めたカイゼンや3S活動の全てを失いました。しかし私たちはまだ元気にはしています。活動も止めません。私は今も働きながら日本での経験や学びを最大限に活用し、友人、同僚、隣人、家族に伝えることで、シリアの復興やビジネスの復活に繋がり、それが他者を勇気づけると信じています。<次号へ続く>



ナイジェリアの中小企業専門の支援機関SMEDENで働いているレジーナさん（右）とラゴス商工会議所のヘンリーさん（左）。前号に続いて、今回はナイジェリアのPRポイントを紹介してくれました。ちなみに、ナイジェリアには、「タコ焼き」があるそうで、日本での研修中は、日本の「タコ焼き」を見て驚いていました。

国際交流部 前田（智）



ナイジェリアの中小企業専門の支援機関で働くレジーナです。前号では私の仕事について紹介しましたが、私は、何かに挑戦でき、学べる仕事がしたくて、ここで働くことを決めました。私がカウンセリングした中小企業が、成長していくのを見ることが、今の私の元気の源です。

日本では、多くのことを学びましたが、日本の皆さんにナイジェリアの魅力もお伝えしたいと思っています。ナイジェリアは、農業や製造業が強みです。日本の消費者を満足させるいいものがあります。政府からの中小企業への支援も手厚いので、皆さんとビジネスをする準備はできています。ナイジェリアにぜひお越しください！

ラゴス商工会議所のヘンリーです。ナイジェリアのラゴスは美しいビーチや国立公園、多様なアクティビティがあります。日本の皆さんにも、ぜひ訪れていただきたいです。ビジネスに関しても、いろいろなチャレンジが可能で、飽きることはないと私は思います。

<次号へ続く>

# Ninja Tech 忍者テックを世界に伝授。

特殊な重機がなくても点検・補修ができるように。

株式会社 特殊高所技術の代表取締役 和田聖司です。もともとは、京都の宮大工務店の息子でしたが、2007年にこの会社を作りました。「地質調査」の現場でロッククライマーが、足場のない高所にロープでぶら下がる技術を見て、「これは高速道路や橋梁など高所での調査、補修などに活用できる!」と考えたのです。会社設立の1か月半後に、アメリカのミネソタ州でミシシッピ川に架かる橋梁が落橋し、多数の死傷者、行方不明者が出了ました。それを契機に、日本国内においてもインフラメンテナンスの必要性が見直され始め、今は、国内外でこの技術への需要は高まっています。

2016年は、モロッコの高速道路会社が、日本の高速道路会社に技術協力してほしいということで、阪神高速道路さんに要請がありました。日本に来られた時に「特殊高所技術 Ninja Tech」のデモンストレーションをご覧になり、とんとん拍子に、弊社がモロッコの人材育成に協力できることになりました。僕らは身一つと機材と技術があればダムの壁や橋梁に近接して点検、補修することができます。世界の国ではこれらを点検するための特殊な重機がない国もあります。そういう国ではより一層メンテナンスができていません。自分たちは小さい会社ですので、世界の一部の地域に限られるのですが、技術をお教えすることで世界中の社会インフラ事故を少しでも減らせるようお手伝いができると願っています。



私たちの技術が  
途上国の役に立てるなら。



これが Ninja Tech。ダムの壁を丹念にチェック。



JICA「投資促進のためのキャパシティ・ディベロップメント(A)」に参加した研修員と。

インタビュー詳細をウェブサイトに掲載中!  
<http://www.prex-hrd.or.jp>

# NEWS &TOPICS

今回は、2019年3月にスタートした「上本町SDGs大学」を中心にお届けしました。この特集が、読者の皆様にとって、持続可能な世界について考えるヒントになれば幸いです。読者の皆様の「SDGs」に関わるご経験や、感想もぜひお聞かせください。お待ちしています。  
E-mail: prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

## キルギス帰国研修員、 日本でセミナーを開催しました！

10月11日、「キルギスセミナー&企業交流会」が大阪市内で開催されました。PREXの帰国研修員が中心となりキルギス企業自ら来日を企画し、在日キルギス商工会議所が受け皿となって実現したものです。キルギスの製造業、縫製業、サービス業、乳製品、エネルギー企業の経営者からプレゼンテーションの後、日本の企業の皆さんと交流しました。キルギスに関心のある方は、お知らせください。

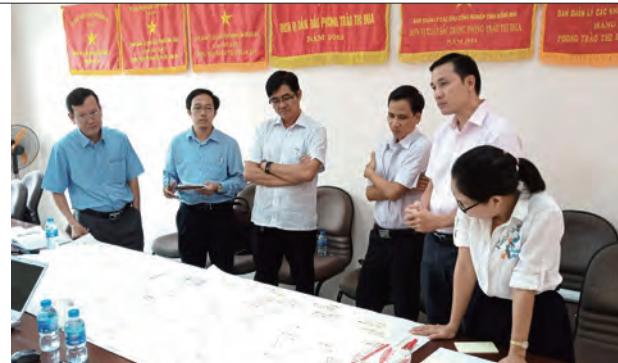
(国際交流部 瀬戸口)



## ドンナイ省の大学、短大の先生方、 ものづくり人材育成に奮闘中！

2014年からスタートし今年で6年目を迎える「ベトナムドンナイ省におけるものづくり人材育成事業」。最初の4年間で教授法を習得したドンナイ省の大学および職業訓練短大のベトナム人教師の皆さんが、この教授法を他の学校へ横展開するために頑張っています。この事業は、日本のものづくり基礎である「5S/3S」と「安全」の講義を継続的に実施できる体制を作ることを目的としています。現地の日系企業を含むものづくり企業に就職するモデル校の卒業生も出てきています。

(国際交流部 明路)



今後の展開を議論するモデル校教師

## AFRICA BY AFRICAN'S !

～アフリカには、どんな資源があると思いますか？アフリカでは、プラチナ、クロム、銅などの鉱物資源、そして原油、天然ガス等が豊富に産出されています。これらを他国に買ってもらうだけでアフリカの人々が潤うはずの産出量です。それなのにアフリカには貧困に苦しむ人々がいます～

PREXでは10月にベナン出身の企業家ゾマホン・スールレレさんを囲み、アフリカの矛盾やアフリカの未来について考える局内勉強会を行いました。ウェブサイトに、お話しいただいた生のアフリカ情報を紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.prex-hrd.or.jp>



## 参加者募集中！

### 第4回 上本町SDGs 大学「SDGs×子どもの権利」

(「みんな仲間だ！フェスティバル2019」での基調講演として開催)

日時 2019年12月8日(日) 13時40分～14時40分(開場 13時)

会場 クレオ大阪中央、定員 50名、参加費 無料

講師 村井琢磨 特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば理事長

演題「子どもがすくすく育つには～子どもと大人が共に育ちあう取り組みから～」申し込みはクレオ大阪ホームページにてご確認ください。

クレオ大阪ホームページ <http://www.creo-osaka.or.jp>

中央館「主催講座・イベント」から

PREX NOW第257号(2019年12月発行)

編集・発行:公益財団法人 太平洋人材交流センター  
専務理事・事務局長:岡本 譲

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6

大阪国際交流センター2階 TEL.06-6779-2850

ホームページ:<http://www.prex-hrd.or.jp>

E-mail:prexhrd-pr@prex-hrd.or.jp

企画制作:ユナイテッド・トウモロー